Symnapse × miniTua-wind ensemble

Symnapse × miniTua-wind ensemble

# シン・フレックス

## Program

にじむファンファーレ
湯地 晃太郎 / 世界初演

キャンディロボ
山根 明季子

Longing from afar
藤倉 大

16 世紀のシャンソンによる変奏曲
( アンサンブル版 )
諏訪 雅彦 / 新版初演

mimesis II - 複数の管楽器のための
宮内 康乃 / 新版初演

空を飛ぶ家 管楽合奏のための組曲
姫野 七弦 / 世界初演

指　揮　西村広幸
演　奏　miniTua-wind ensemble

【助成】
公益財団法人国際音楽芸術振興財団
公益財団法人戸部眞紀財団

# ご挨拶

本日は Symnapse × miniTua-wind ensemble ～シン・フレックス～にご来場いただきありがとうございます。

Symnapse は 2022 年に活動を開始して以来、吹奏楽経験と現代音楽への興味という共通項を持ったメンバーにより、その両者を結びつけ新たな音楽の可能性の追求とその普及を目指した活動を実施しております。これまでに計 4 回の公演を開催したほか、YouTube をはじめとする楽曲解説などの動画コンテンツの制作も行なっております。

さて、今回は「シン・フレックス」と題し、近年吹奏楽界で注目を集めている「フレックス編成」に注目しました。

また、編成以外の面でも公演のたびに毎度新たな取り組みを行ってきましたが、今回は他団体との協働を初めて行います。特別協力として今回お世話になっている miniTua-wind ensemble 様は、当会メンバーと同世代で、団体としても活動歴が近く、今回ご一緒することができ嬉しく思います。

最後になりますが、本公演を行うにあたり助成をいただいた公益財団法人国際音楽芸術振興財団様、公益財団法人戸部眞紀財団様、デザイナーの栗原侑莉様、録音をご担当くださる K.M.Works 様、録画をご担当くださる株式会社 CAFUA レコード様、その他お世話になった全ての皆様に感謝申し上げます。

Symnapse

---

本日はご来場いただき誠にありがとうございます。

2022 年に開催した旗揚げ公演から早 4 年、過去 5 回の公演に参加してくれた演奏者のほとんどが東京藝術大学を卒業し、各々の場所で活躍を見せています。

miniTua-wind ensemble は、小編成吹奏楽の新たなカタチを追求すべく活動を展開してまいりました。その一環として、第 2 回公演では小編成を活かした新作の初演も行いました。

そして今回は、Symnapse とのコラボ公演として、フレックス編成の新たなカタチに迫ります。藝大から羽ばたいた演奏者が魅せる自由で真新しいアンサンブルと、Symnapse メンバーの意欲的でチャレンジングな構成、新作を、ぜひお楽しみください。

私たちはこれからも、吹奏楽の可能性を広げるべく積極的に活動を続けてまいりますので、引き続き皆様のご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

miniTua-wind ensemble

# プログラム

**にじむファンファーレ**

Fanfare Toward the Rainbow Dream for wind instruments

**作曲：湯地 晃太郎**

**キャンディロボ（6人での演奏）**

Candy Robo (by 6 players)

**作曲：山根 明季子**

**キャンディロボ（11人での演奏）**

Candy Robo (by 11 players)

**作曲：山根 明季子**

**Longing from afar**

Longing from afar

**作曲：藤倉 大**

**— 休憩（20分） —**

Intermission (20 min.)

**mimesis II - 複数の管楽器のための**

mimesis II - for multiple wind instruments

**作曲：宮内 康乃**

**16世紀のシャンソンによる変奏曲（アンサンブル版）**

“Variations on a 16th Century Chanson” for Ensemble

**作曲：諏訪 雅彦**

**空を飛ぶ家 管楽合奏のための組曲**

The Ascending House Suite for winds and percussion(s)

**1. Overture　2. Aria / 浮かぶ家の中で**
**3. Scherzo / 骨組みの奇妙なダンス　4. Finale / 空を飛ぶ家**

1. Overture　2. Aria / In the Levitating House
3. Scherzo / Weird Dance of the Framing　4. Finale /  The Ascending House

**作曲：姫野 七弦**

# 本公演について

見ての通り本稿はかなり長いので、本公演がどうしてこのようなプログラムになったかに興味がある方のみお読みいただけたらと思う。しかし、できればぜひ目を通していただき、フレックス編成の存在意義や活用法について少しでも考える機会にしていただけると幸いである。

本公演は「シン・フレックス」という名を冠している。「シン・ゴジラ」や「シン・ウルトラマン」と同様の意味合いの「シン」を、「フレックス」なる編成と掛け合わせたものだ。

「フレックス編成」[1]とは？　吹奏楽に日頃接していても、この疑問に明快に答えられる方はかなり少ないのではないだろうか（かくいう我々も言語化には常々苦心している）。であれば、吹奏楽界に関わりのない方にとってはもはや何のことやら、と思われていることだろう。よって、まずはフレックス編成の定義から考えていきたい。

日本の吹奏楽界で一般に「フレックス編成」といわれたときは、おそらく以下の条件を満たしたものが想起されるだろう。

- 3 つから 8 つほどのパートが用意されている（しばしばその中にはオプショナル・パートを含み、また打楽器がそこに含まれる場合もある）
- それぞれのパートに楽器の選択肢が示されていて、その中から楽器を選び 1 人以上割り当てるよう指定がある

フレックス編成の販売譜には、オリジナル作品とアレンジ作品のどちらも一定数存在する。しかし、オリジナル作品のほとんどは、吹奏楽かアンサンブルのための作品から編曲されたものである（よくよく考えれば、演奏団体が委嘱を行うときにわざわざフレックス編成を指定することはあまり考えられないし、作曲家も演奏家が明確に存在しながら固定編成ではなくわざわざフレックス編成にする理由もない）。出版社から委嘱された場合は例外的だ（《キャンディロボ》がまさにその例外である）が、いずれにせよフレックス編成のために当初から作曲された作品はかなり少ないと言わざるを得ない。

そしてそのことにより、フレックス編成でありながら、その指示に従ったことで予期しない音量バランスの崩壊が生じたり、楽器の持つポテンシャルから乖離した演奏を強いられたりしているのではないだろうか。

極端な例として、1st パートにフルートが、最低音を担当するパートにはコントラバスが、それ以外のパートには金管楽器が割り当てられ、しかもサクソフォーン・アンサンブル作品から書き換えられたフレックス作品に取り組んでいる場合を想像してみよう。1st にのみメロディが割り当てられていた場合、いくら頑張って音量を大きくしてもメロディは聞こえないだろう（サクソ

1　日本国内においてはフレックスの他に「フレキシブル」、「コンバーチブル」、「インターチェンジャブル」といった名称も用いられており、さらに海外ではまた別の呼び方も用いられる。本公演においては、その中でも最も一般的と思われる「フレックス」を採用した。

フォーン・アンサンブルならソプラノが担当するため問題は起こりづらい)。金管楽器に対するベースラインとしてコントラバスはあまりに無力なのは想像に難くない。そして、サクソフォーンの機動性を想定して書かれた音符は、金管楽器にとっては非常に難易度の高いものになるだろう。

確かに極端な例ではあるものの、しかし楽譜の指示通りであるため、実際に現場ではしばしば似たような事例が発生している。

作曲家の側から見たときにも、フレックス編成は「音量バランスが想定できない」、「音色を選べない」、「音域に通常以上の制限がある」などの問題がある。

しかし、すべてのフレックス作品がこのような問題をもっているわけではない。これらの問題を解決しているいくつかの例を見ていきたい。

《鬼姫―ある美しき幻影―》(田村修平)は、全部で 8 つのパートを持つ、先の条件に合致したフレックス作品だ(原曲は固定編成のアンサンブル作品)。ただし、Part 1 はフルート(ピッコロと持ち替え)のみ、Part 2 はフルートのみが指定されている。また、トランペットは楽器編成に入っていない。調性音楽(すなわち最低音が和音の機能に強く影響する音楽)ではないので、他の作品と比較すると Part 8(最低音を主に担当するパート)の重要度は他のパートと同等くらいになるだろう。先の極端な例から想像すると、かなりバランスの問題が緩和されていることがわかる。

《草原のプレリュード》、《渓谷のプレリュード》(高橋宏樹)は、オプショナル・パートを含めて 11 パートのフレックス・パートをもつ編成だが、各パートの楽器の選択肢が概ね 2 つずつしか存在せず、それぞれのパート内で音量が大きく変化しないように設計されている。

また、《風のファンファーレ ウインド・アンサンブルとフレキシブル・バンドのための祝典音楽》(中橋愛生)は管弦楽器がソロ・パート群とフレックス・パート群に分かれるが、そのフレックス・パート群はさらに木管楽器 3 パート・金管楽器 3 パート・低音楽器 1 パートに分けられ、その中で楽器の選択肢が設けられている。このことによって、大まかな楽器区分でそのポテンシャルを生かすことに成功している。

なお、高橋・中橋両氏による 3 作品はいずれも、当初より固定編成ではなくこの編成のために書かれている。

他にも、ソロ・パートのみ複数楽器から選択できる作品や、一部パートのみ選択肢が与えられている作品などが存在する。変わり種としては、打楽器群の楽器の指定がない(タイミング、大まかな音高のみ指定されている)編曲譜もある。この編曲では、原曲を聴いた上でバンドにある打楽器の中から適したものを選択するよう指示されている。

現代音楽に視点を広げると、吹奏楽界における「フレックス編成」として書かれてはいないが、それに近い発想の編成の作品がいくつか存在していることもわかる。

《スタンディング 不特定の異種 3 楽器のための》(近藤譲)は、例えば「フルート」、「トランペット」、「シロフォン」のような異なる発音体、つまり異なる音色的特徴を持つ楽器 3 種によるアンサンブルであり、それ以外の楽器指定はない。3 パートが近い音域の中で交互に発音することで、その音色の差が生かされる。

ミニマル音楽の始祖とも言われる《In C》(テリー・ライリー)は、もはや楽器指定が一切なく(究

極の「フレックス編成」といえよう)、53 のセグメントからなる単一の譜表を大勢で演奏する作品である。基本的に、演奏者はそれぞれのセグメントを何度も繰り返し、ある程度繰り返したところで次のセグメントに移行するが、その際各々が演奏するセグメントは少しずつずらしていくよう指示されており、そのことにより全体の音響がゆるやかに推移していく。

ここまでの話をまとめると、フレックス編成といえるものには以下のように区分できそうだ。

- 一般的なフレックス
- 一部楽器のみ固定したもの
- 各パートの楽器の選択肢をより狭めたもの
- 一部パートのみ選択肢が与えられたもの
- そもそも楽器の指定がないもの

さて、冒頭に示したフレックス編成の条件はどこまで有効だろうか？　もっと、それこそフレキシブルに捉えても良いと思えてはこないだろうか。

そしてさらに付言すると、フレックス編成のもつ問題点の解決は楽器編成の工夫以外でも可能である。

先に挙げた作品では《In C》は即興性などによって各楽器のヒエラルキーが相当に薄れているため、バランスの問題が通常より起こりづらい。《スタンディング》では各奏者が交互に音を奏するため、互いに音を打ち消しあう心配がほとんどない。また、本公演で演奏する作品について述べると、《にじむファンファーレ》、《Longing from afar》や《mimesis II》も《In C》と同様に即興的な要素が含まれていることで同様に解決されている。《キャンディロボ》は即興的でこそないが、音色のばらつきがむしろ音楽的に魅力と感じられるように作曲されている。

さて、本公演ではもう 1 つ、これまでとは異なる試みとして miniTua-wind ensemble との協働を行なっている。この団体は我々と同世代であり、かつ吹奏楽界に対しての視点に共通する部分を持っていることから声をかけ、今回の公演が実現した。しかも、ただ演奏を依頼するのではなく、お互いの活動目的に沿う内容に落とし込むべく、企画段階から両団体のメンバーで幾度となく打ち合わせを重ねてきた。その甲斐あり、我々 2 団体にしか実現し得ない公演になったのではないかと自負している（フレックス編成をテーマに据えた公演は確かに他にもあるが、ただの演奏のお手本にとどまらずにその提言や刷新を図るものはなかなかなさそうだ)。

なお、当会では「ご挨拶」でも触れているように、YouTube にて動画コンテンツの公開を行なっている。ここでは、演奏会でのライブ収録はもちろんのこと、今回は「フレックスってなあに？」と題した、本稿の内容とも関連が深いフレックス編成の諸相について考えている動画を公開しており、後日本日の演奏も公開予定だ（詳しくは Symnapse の YouTube チャンネルからチェックされたい)。ぜひご覧いただければ幸いである。

Symnapse（文責：姫野）

# プログラム・ノート

## にじむファンファーレ

楽譜販売ページはこちら

作曲：湯地 晃太郎

「自由」って何だろう？　何にも縛られず、誰の意見にも左右されず、自分で好き勝手生きていくことだろうか？　そんな理想像を夢見ることはあれど現実問題そうはいかない。決まった時間に起きて決まった労働をし、そうこうしているうちに一日は終わっていくのだ。でも、バタバタとした日々の中で好きなことや自分らしいと思えることがちょっとでも出来たらどれだけ心の負担が軽くなるだろうか。画一的な社会に生きる我々において「少しでも自由でありたい」と思い続けることこそが日々を彩る最高の調味料となるであろう。

「フレックス編成」というどの楽器も同じ楽譜を演奏せねばならないという画一的な音社会。本作品はその中で各人が個性を出すこと、意思を表出することを讃美するファンファーレである。一見ばらばらに、適当に演奏しているように聞こえるかもしれない。しかしそれらが集まり、音楽のうねりとなって突き進んでゆく。一人ひとりの個性が輝く「虹色の夢」に向かって……。

なお、本作品は 20 世紀ポーランドを代表する作曲家、W. ルトスワフスキが用いた音楽技法「管理された偶然性」を参照している。それぞれの奏者が複数のフレーズを好きなように選択して自由なタイミングで演奏するセクションと、そうではないセクションとを行き来する。管楽器は 3 パートしか用意されていないが、3 パートとは思えないほど多彩なめくるめく音世界を体感できるだろう。（湯地）

**【作曲者プロフィール】**

宮崎県出身。主に管楽器を中心としたアコースティックな楽器編成のための作品を発表し、吹奏楽やアンサンブルのための作品がネクサス音楽出版より出版されている。

あたらしい調性音楽の語法を模索しているほか、近年は世界各地の伝統音楽や遊びから自然発生的に生まれる複雑性に着目した、新奇性とポピュラリティを両立した作品の制作に取り組んでいる。第 32 回 TIAA 全日本作曲コンクール室内楽部門 3 位入賞。第 32 回朝日作曲賞第 3 次審査（最終選考）。

## キャンディロボ

楽譜販売ページはこちら

作曲：山根 明季子

本作品は、ブレーン株式会社によって委嘱された一連のフレックス編成のための作品の一つであり、2014 年に楽譜が出版されている。「キャンディのロボットたちが行進する音楽」（楽曲解説より）と山根氏が述べている通り、作曲者らしいポップな音像が繰り出されてゆく。また、行進曲というスタイルは「イルミネイテッドベイビー」をはじめとした山根作品に頻出のものである。作曲者が初めて吹奏楽との接点を持ったという本作において、軍楽や学校行事における行進曲の存在を念頭に置いていたであろうことは想像に難くない。そのうえで、行

進するのが「キャンディのロボット」であることを考えると、「甘くて可愛いライトな音像」を描いたという本作において作曲者が効かせた一つまみの毒が窺えるだろう。

もう一つの重要な点として、作曲者はこの作品について「どんなバランスの編成も、" 劣った " ものにならないっていう、全部個性として肯定できるような音楽の核心を目指しました🌈」（山根氏 X アカウントより）と述べている。フレックス編成におけるアンバランスさを逆手に取った見事な発想であり、ある意味での社会との接続も意識されているだろう。

本日は、楽譜が指定する最小編成である 6 人と、本公演の最大人数である 11 人で合計 2 度演奏される。オプションである打楽器によるポップな装飾にも耳を奪われるが、管楽器の人数が増えたことによる「デコボコ」さの変化に何より注目していただきたい。（飯田）

## Longing from afar

### 作曲：藤倉 大

楽譜紹介ページはこちら

新型コロナウイルス感染症の拡大により、移動の自由が制限され、人と対面で会うこともままならず、ほぼ全ての音楽家が活動を縮小せざるを得なくなった 2020 年。この作品は世界的指揮者である山田和樹氏の「リモートで演奏でき、できれば指揮者も入った作品を」というアイデアを受け作曲された。作品も山田和樹氏に献呈されている。リモートとはつまり、Zoom や Skype などのオンライン通話サービスを用いて、世界中の奏者と同時に演奏するということである。アンサンブルの成立条件である「空間の共有」ができない時期において、先述のテクノロジーによりアンサンブルを成立させる試みといえるだろう。オンライン通話サービスの仕様により完璧に縦を合わせることは出来ないが、作曲者はそれも演奏における個性として認めている。

さて、この作品はいずれの楽器や声で演奏してもよく、実際に多様な編成で演奏されてきた。作曲者は、このような楽器選択の自由な形式を「オープンなスコア」と呼んでいる。「オープンなスコア」には図形楽譜やテキスト譜が用いられることが多いが、それらとは逆に音高を明示することを重要視して作曲したという。余談だが、一般にフレックス編成は「オープンなスコア」の条件に当てはまるものの、図形楽譜やテキスト譜で記譜する可能性は大抵検討されない。本公演においては《mimesis II - 複数の管楽器のための》が唯一音程の明示されていない作品である（もっとも、この作品も「フレックス編成」という枠組みを念頭に置いた作品ではないのだが）。本公演に先立って Symnapse が YouTube に投稿した動画「フレックスってなあに？」では、「オープンなスコア」の領域にも足を踏み入れつつフレックス編成について論じているため、ぜひご覧いただきたい。

本公演では、リモートではなく「空間の共有」もされた演奏を行う。ある意味で作品の文脈から離れた演奏ではあるが、「空間の共有」ができる喜びを噛みしめながらお聴きいただきたい。（飯田）

## mimesis II - 複数の管楽器のための
作曲：宮内 康乃

耳を澄ませば四方から聞こえてくる、ぽつぽつとした点状の音。時には鳥の群れが一斉に飛び立つように音が連鎖し、時には静寂が訪れる。次第に音は線状になり、ついには鳥や虫、動物たちの大合唱を聴いているかのような音のうねりに飲み込まれる。ぐるぐると旋回する音の連鎖、その中で一つの「音の形」を探しにゆく。それはいったいどんな形なのだろうか……？

「mimesis」はギリシャ語で「模倣」という意であり、一定のルールに基づいて奏者が音を模倣しあうことで楽曲が進んでいく。楽譜に記されたメロディやリズムを再現する一般的な西洋音楽とは全く異なり、奏者の身体的感覚のズレや奏者同士のコミュニケーションによって紡がれる「生きた音楽」を実現しようとする。

本公演では、もともと 3 名以上の鍵盤ハーモニカのために書かれた「mimesis」を再構築した管楽アンサンブル編成のための作品「mimesis II」として初演する。演奏する楽器や人数に決まりはなく、五線譜を読む必要はほぼないため、楽器初心者・経験者関係なくその場にいる不特定の奏者で演奏可能である。編成や難易度の垣根を超えた「フレキシビリティ」の先に生まれる、豊穣で美しい音楽表現を体感しよう。（湯地）

**【作曲者プロフィール】**

東京学芸大学 G 類音楽科 作曲専攻 卒業。情報科学芸術大学院大学 (IAMAS) メディア表現研究科 ( 修士 ) 修了。

人の声や身体などをベースに楽譜を用いない独自の作曲法で創作を行う。主宰する音楽パフォーマンスグループ「つむぎね」による声や空間を用いたパフォーマンスや、様々な人たちと声を重ねるワークショップ活動「わ・つむぎプロジェクト」を、国内外で多数実施。仏教声楽・聲明や邦楽、ガムランなど、アジア音楽の新しい創作にも取り組んでいる。「mimesis - 複数の鍵盤ハーモニカのために -」で第 6 回 JFC 作曲賞受賞。2025 年度より富士見市民文化会館キラリ☆ふじみ芸術監督。

## 16世紀のシャンソンによる変奏曲（アンサンブル版）
作曲：諏訪 雅彦

本作品は、2009 年全日本吹奏楽コンクール課題曲として作曲された同名の吹奏楽作品が元になっている。

16 世紀の世俗シャンソン《若い娘》（Une jeune fillette）に基づくテーマ（譜例）が提示された後、流れるような楽想の第 1 変奏、転じて拍点が明確になる第 2 変奏、Interlude（間奏曲）と記され、変奏の中で唯一長調に転じる第 3 変奏、8 分の 3 拍子の舞曲風の第 4 変奏、トルコ風の行進曲である第 5 変奏と続き、冒頭に回帰していくコーダによって締められる。

なお、今回演奏する版は、既に完成している複数のバージョンの編曲から派生し、本公演のために作曲者自身により編曲された。（姫野）

**【作曲者プロフィール】**

1959 年長野県岡谷市生まれ。本名・佐藤正。東京芸術大学作曲科中退。

主な吹奏楽作品:「ウィナーズ―吹奏楽のための行進曲」（第 13 回朝日作曲賞受賞）、「ヴォルケーノ―吹奏楽のための行進曲」（第 11 回“響宴”）他。

## 空を飛ぶ家 管楽合奏のための組曲

作曲：姫野 七弦

楽譜販売ページはこちら

本作品は、吹奏楽や固定編成の室内楽の下位互換としてではない、
フレックス編成でこそ生み出し得る魅力をもつ音楽を模索したものである。

具体的には、Higher / Lower Group それぞれの 1st パートのラインと打楽器だけで音楽を成立させ、2nd 以降のパートに関しては 1st パートを彩るように多様な重なりやずれを施している。団体によって楽器の数や組み合わせが変わることで異なる音響や色彩をもつ独自の音楽が発出し、またそのような音楽を探求できるように作曲を行なった。

そのような作品であるため、吹奏楽や管楽アンサンブルはもちろんのこと、金管バンドやサクソフォーンオーケストラのような同属楽器群による大アンサンブルでも演奏可能であり（ちなみに、Higher / Lower Group 合わせて 20 パートを用意しており、本公演では全パートを網羅していない）、ぜひ取り組んでいただけたら幸いである。

作品は以下の 4 曲によって構成されている。

〈Overture〉ファンファーレ的な音型に始まる短い序曲。
〈Aria / 浮かぶ家の中で〉少し不穏な空気をもつ、「うた」が中心の音楽。じわじわと浮かんでいく家の描写。
〈Scherzo / 骨組みの奇妙なダンス〉Aria とは打って変わってリズムが中心の諧謔的な音楽。さまざまに音がぶつかっていく。
〈Finale / 空を飛ぶ家〉モードクラスターを中心にしたカラフルな響き。家は完全に地面から解き放たれている。（姫野）

**【作曲者プロフィール】**

2000 年生まれ。管打楽器を用いた作品を中心に、さまざまな媒体のための創作活動やそのアシスタントを行なっている。

吹奏楽やアンサンブルのための作品がネクサス音楽出版、CAFUA レコードより出版されている。

2024 年に 21 世紀の吹奏楽 第 26 回“響宴”に、2025 年に 21 世紀の吹奏楽 第 27 回“響宴”にそれぞれ選出。2026 年にズーラシアンブラス 作曲コンテスト 2026 優秀賞を受賞。

これまでに作曲を大橋征人、井元透馬、鈴木純明、渡辺俊哉、川島素晴、菊池幸夫の各氏に師事。

横浜市立戸塚高等学校普通科音楽コース(マリンバ専攻)、東京藝術大学音楽学部作曲科を卒業後、国立音楽大学大学院修士課程作曲専攻作品創作コースを修了。作曲の会「Shining」会員。

# プロフィール

## 指揮 ／ Conductor

### 西村 広幸 ／ NISHIMURA Hiroyuki

埼玉県出身。東京藝術大学音楽学部指揮科を経て、同大学大学院音楽研究科修士課程を修了。学部卒業時に、アカンサス音楽賞、若杉弘メモリアル基金賞を受賞するほか、2024 年 5 月の新卒業生紹介演奏会に選出され、藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。
これまでに、指揮を横山奏、高関健、山下一史、現田茂夫、下野竜也の各氏に師事。

## フルート ／ Flute

### 久田 萌 ／ HISADA Moe

千葉県出身。東京藝術大学音楽学部附属音楽高等学校、東京藝術大学を卒業後、桐朋学園大学研究生を経て現在桐朋オーケストラアカデミー在籍中。
第 24 回日本演奏家コンクール木管楽器部門第 1 位および毎日新聞社賞受賞。
これまでに黒田由樹、大平記子、上野由恵、高木綾子、神田寛明、小池郁江の各氏に師事。

## クラリネット ／ Clarinet

### 石田 優果 ／ ISHIDA Yuka

千葉県浦安市出身。9 歳よりクラリネットを始める。
これまでにクラリネットを渡邊一毅、豊永美恵、三界秀実、中舘壮志の各氏に師事。
大学在学中よりソロ、室内楽、オーケストラなど多岐にわたる演奏活動を展開し、学内外の多数の演奏会に出演。東京藝術大学を経て、現在同大学院修士課程に在学中。

### 鈴木 優菜 ／ SUZUKI Yuna

千葉県船橋市出身。3 歳からピアノ、9 歳からクラリネットを始める。
第 19 回ジュニア管打楽器コンクールクラリネット部門中学生コース金賞。これまでに、クラリネットを西川智也、十亀正司、伊藤圭、四戸世紀、三界秀実、サトーミチヨ、野田祐介、鳥潟さくらの各氏に師事。東京藝術大学音楽学部附属高校を経て、東京藝術大学卒業。

### 眞塩 由希子 ／ MASHIO Yukiko

千葉県市川市出身、流山市在住。9 歳より部活動にてクラリネットを始める。
千葉県立船橋高等学校、東京藝術大学を卒業後、2026 年 3 月に同大学院音楽研究科修士課程を修了。2024 年より芸劇オーケストラ・アカデミー・フォー・ウインド第 11 期生。
第 42 回ヤマハ新人演奏会、第 49 回藝大室内楽定期に出演。

## サクソフォーン ／ Saxophone

### 吉田谷 隆介 ／ YOSHIDAYA Ryusuke

2002 年生まれ。サクソフォーンを 12 歳で始める。
これまでに、サクソフォーンを須川展也、彦坂眞一郎、本堂誠、有村純親、榮村正吾、大石将紀の各氏に、室内楽を彦坂眞一郎、松井宏幸の各氏に師事。ジャズサクソフォーンを後藤天太氏に師事。現在、東京藝術大学修士 1 年在学中。

## トランペット ／ Trumpet

### 関根 美羽 ／ SEKINE Miwa

茨城県ひたちなか市出身、８歳でトランペットを始める。東京藝術大学音楽学部器楽科卒業。第 93 回日本音楽コンクール第 2 位。奏楽堂モーニングコンサートにて藝大フィルハーモニア管弦楽団と共演。これまでにトランペットを栃本浩規、菊本和昭、佐藤友紀、井川明彦、辻本憲一、澤畑仁美の各氏に師事。

## ホルン ／ Horn

### 西川 優弥／ NISHIKAWA Yuya

神奈川県横浜市出身。2024 年に東京藝術大学を卒業。卒業時にアカンサス音楽賞、
同声会賞を受賞。同大学同声会新人演奏会に出演。
ホルンを森雅彦、須山芳博、日髙剛、木川博史、勝俣泰、豊田実加の各氏に師事。
大学在学中にオーディションに合格し、現在東京フィルハーモニー交響楽団ホルン奏者。

## ユーフォニアム ／ Euphonium

### 岩井田 さくら／ IWAIDA Sakura

東京藝術大学音楽学部を経て同大学院修士課程を修了。
大阪教育大学・大阪府立夕陽丘高等学校非常勤講師。
ユーフォニアムを竹村由加里、露木薫、岩黒綾乃の各氏に師事。
オオサカ・シオン・ウインド・オーケストラ ユーフォニアム奏者。

## テューバ ／ Tuba

### 渡部 陽菜／ WATABE Hina

神奈川県出身。洗足学園音楽大学を卒業。在学中、前田音楽奨励賞および前田記念奨学金を受賞。その後、東京藝術大学別科を修了。クラシックを基盤に、ジャンルを超えた柔軟な演奏スタイルで、プロオーケストラへの客演やアニメ作品の録音、ソロ・アンサンブルなど幅広く活動している。吹奏楽を中心に後進の指導にも力を注ぐ。

## パーカッション ／ Percussion

### 本間 達也／ HOMMA Tatsuya

2001 年生まれ。平塚中等教育学校、東京藝術大学音楽学部器楽科を卒業し、同大学院を修了。現在、東京藝術大学音楽学部教育研究助手。GPS 主催第 3 回スネアドラムコンテスト音大生部門金賞、準グランプリ。日本打楽器協会第 40 回新人演奏会最優秀賞。これまでに打楽器を高田亮、杉山智恵子、藤本隆文の各氏に師事。室内楽を藤本隆文氏に師事。

### 菊池 幸太郎／ KIKUCHI Kotaro

静岡県富士宮市出身。静岡県立富士高校、東京藝術大学器楽科卒業。都内を中心にオーケストラ・吹奏楽団に賛助出演する他、室内楽や音楽鑑賞教室などでも精力的に活動。
NHK 交響楽団「N 響アカデミー」に在籍。デュオグループ「きくちのきょうだい」メンバー。
打楽器・マリンバを、十鳥勉、竹島悟史、藤本隆文、和田香織、各氏に師事。

## 司会 ／ MC

清川 愛実 ／ KIYOKAWA Manami

## スタッフ ／ Staff

飯田 匡（Symnapse）／ IIDA Tasuku
今田 俊輔（miniTua-wind ensemble）／ IMADA Shunsuke
後藤 元信（Symnapse）／ GOTO Motonobu
中村 陽太（Symnapse）／ NAKAMURA Yota
長谷川 志樹 ／ HASEGAWA Motoki
服部 亜里沙 ／ HATTORI Arisa

## デザイン ／ Design

真田 将太朗 ／ SANADA Shotaro（ロゴ）
栗原 侑莉 ／ KURIHARA Yuri（フライヤー・プログラム表紙）

## 収録／ Recording

K.M.Works（録音、特別協力）
株式会社 CAFUA レコード（録画、特別協力）




## Special Thanks

神代 駿太郎

高橋 双葉

二宮 綾音

藤川 七美

フォスターミュージック株式会社

# 主催・特別協力について

## Symnapse

若手音楽家によるグループ。
2022 年に開催した第 1 回公演を皮切りに、吹奏楽経験と現代音楽への興味という共通項を持ったメンバーにより、新たな音楽の可能性の追求とその普及を目指した活動を行なっている。

## miniTua-wind ensemble

新たな吹奏楽のカタチを追求し小編成吹奏楽に本気で向き合うべく、東京藝術大学で学ぶ有志で 2022 年に結成した小編成吹奏楽団。中高生が小編成吹奏楽の新たな魅力や可能性を発見し、人数に関係なく「音楽を楽しむ」土壌となることを願い活動を展開している。

| Symnapse | | miniTua-wind ensemble |
|---|---|---|
| symnapse.jp | ホームページ | minitua-wind.com |
| @symnapse | Twitter（現 X） | @miniTua_wind |
| @symnapse_info | Instagram | @minitua_wind |
| @symnapse | YouTube | @miniTua_wind |






MVSICA
DELECTAT
ET CONSOLATVR

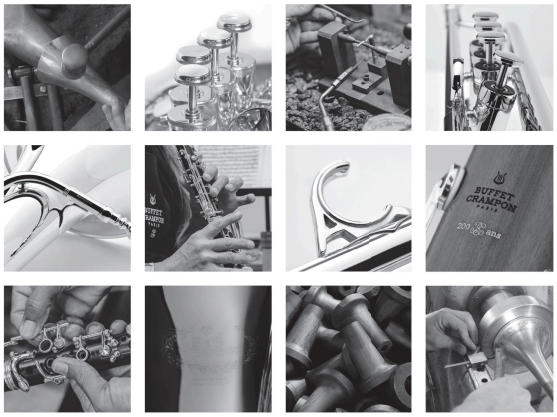
音楽は　ある時は人々によろこびを与え
ある時は勇気づけ　またある時は悲しみを癒す

Musical Instruments Shop DAC

**管楽器専門店 ダク**

〒169-0073 東京都新宿区百人町 2-8-9
TEL 03-3361-2211／FAX 03-3361-4300
Eメール info@kkdac.co.jp／https://www.kkdac.co.jp/
［営業時間］11:00~19:00（日祝日は10:30~19:00）［定休日］毎月第1・第3水曜日（祝日を除く）

▲ホームページはこちら



BUFFET CRAMPON

BUFFET CRAMPON PARIS ／ BESSON LONDON ／ Antoine Courtois Paris ／ POWELL FLUTES BOSTON ／ Rigoutat PARIS

情報サイト

総合インスタグラムアカウント

株式会社 ビュッフェ・クランポン・ジャパン

情報サイト　https://buffetcrampon.jp/
Instagram　@buffetcramponjapan





# Symnapse　次回予告

## 第5回演奏会

2027年6月6日（日）

都内ホール（予定）

**湯地晃太郎**プロデュース企画

（吹奏楽編成）



ソナーレ
# Sonare

## あなたの音色が響く場所

あなたらしい働き方を一緒に見つけてみませんか？

音楽家の要望に応え続けて25年
楽器演奏可能マンション 管理実績 No.1

昔から音大生や音楽家の方々と共に働いてきた
ソナーレグループならではの多種多様な働き方をご用意しています。

雇用形態と働き方は人それぞれ。

**正社員、準社員、アルバイト、個人事業主**

面談を通して、あなたのライフスタイルに合った
「働くカタチ」を見つけていきましょう。

詳しくは
ホームページを
check

＼ソナーレHP／

ソナーレグループ
＼採用情報はこちら／

音TOWN
＼オンタウン／

エントリーはこちら

【音TOWN】音楽“と”生きる街
フリーランスの音楽家が「お金」「多様性」「生き方」などを学べる情報サイト

株式会社ソナーレは音楽家のための「楽器演奏可能マンション」を専門に扱う
東京の不動産管理会社です

株式会社ソナーレ　〒171-0021 東京都豊島区西池袋1-16-1-3F　TEL:03-5958-0051



# 演奏会での演奏はたった一度きり——

# その思い出を、録音で残しませんか？

ケーエムワークスでは、
ホール常設のマイクではなく音にこだわって選び抜いたマイクを持ち込み録音します。
スタジオやホール、リハーサル室、どんな場所でもレコーディングが可能です。

## 演奏会収録



## コンクール オーディションの録音



## レコーディングスタジオの録音



ケーエムワークス　検索　https://www.km-works.net

レコーディング＆ミキシング、マスタリング、楽譜制作まで対応可能な音楽プロダクション

K.M.works

050-1808-3923
info@km-works.net（担当：三國）

詳細
お問い合わせ

楽譜だけじゃない！

**映像収録・録音もCAFUA**

CAFUA
映像事業部

# 全国どこでも
# 定期演奏会
# 撮影 DVD制作 承ります

奏者の表情まで捉える**高画質**マルチカメラ収録！
演奏が上手く聴こえる！秘伝の**録音技術**
面倒な**集金は不要**！ オンライン注文対応！



**お見積り無料**
**お気軽にお問い合せください**

info@cafua.com
03-6261-4564

**大好評！ 集金不要の販売システム**

DVD代金を現金で集金するのはとても大変！
全国に散らばった卒業生にDVDを渡すのも送るのも大変！
という声にお応えして、DVD特設購入ページ制作します！（パスワードによる限定公開）

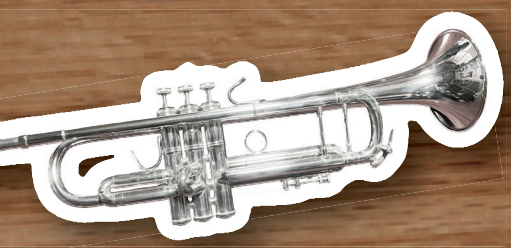
**特設ページからネット注文することで・・・**

- お金のトラブル減↓
- 個別発送全国OK
- カード利用可能
- 顧問・担任負担軽減

＼ お気軽にお問い合わせください！ ／

CAFUA RECORDS

株式会社 CAFUAレコード
〒102-0075 東京都千代田区三番町24 林三番町ビル4F
TEL 03-6261-4564 / FAX 03-6261-4565 https://cafua.com info@cafua.com



















Symnapse × mini wind ensemble